

むうっつ
たまらんなあ…っ

あの美しき
翡翠の瞳に私が――

お前を抱いている男
として映っておる…っ♡

ふっ

ふっ

だ、出すのは
膣外だからね…っ

ちよっと…
聞ってるの!?

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

フン…ならば
もっとサービスして
もらわんとな

ひ…イヤ…っ
キスは…っ

あれも嫌これも嫌で
出せる額ではないぞ…
あまり私を怒らせるな

ッロ
ッロ
ッロ

ぐっ

うう…っ
ガマンしなきゃ…

シアターのために
私が…っ



おお、甘露甘露…♡

花のような香りで
蕩けそうだ…ッ

うう…っ
早く終わって…っ



おっ…!!
お、おお…ッ
♡♡

ひるるるる

えっ…
あつダメっ!

そと…
そと
膣外につ!!

るるるる

るるるる



あ、暴れるな…っ

一番奥にたつぷり—
お…おお…ッ♡

や、やだっ
離して…いやあっ！

出る…

熱いの
出ちゃってる…っ！

びゅっ

びゅっ
びゅっ

びゅっ
びゅっ

びゅっ
びゅっ



やった…ついに
仕込んでやったぞ…ッ

艶めかしく男を誘う
この細い腰つき――

こうしてやりたいと
何度思った事か…！

イヤ…

カタ

ふーッ

ふーッ

カタ

踊れなく
なっちゃう…

このまま種汁で子壺を
溺れさせてやる…ッ

ハッ

くっ
くっ

お前はわしの腹の上で
腰を振っていいばいいのだ

貧乏人どもに肌を晒す
など勿体ないからな

も…

やる…
して…

——いや、逆に孕み腹で
舞台に出すのも一興か…

男共が嫉妬に狂う様は
さぞかし愉快であろうなあ















